マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

会 場　ポートメッセなごや　第３展示館

9月28日（木）　プログラム（9:00開場）

9:30

1 墜落・転落防止対策の見直しによるリスクポイントの低減と作業効率の向上

㈲正栄工業
専務取締役
梅園 和生

㈲正栄工業は浅川造船㈱の構内協力会社である。墜落制止用器具に関する法改正に伴いリスクアセスメントを実施し、元方とのコミュニケーションの場で墜落転落防止対策の見直しを行った結果、リスクポイントが低減し作業効率も向上し、安全で効率のよいプロセスとなった。

9:50

2 リスクアセスメントを用いた危険要因の排除

川崎重工業㈱ 西神工場
航空宇宙システムカンパニー 航空エンジンディビジョン
エンジン生産総括部 西神製造部 西神検査課 班長
島津 竜一

航空機エンジン製造部品の寸法検査職場に潜む危険をリスクアセスメントの手法を用い実施した。作業者の動きに加え、使用工具 / 設備 / 手順書に焦点を当て問題抽出を行う事により、不安全な動き及び不安全な手順を班員と話し合い共有しリスクレベルの低減へ繋げる取り組みができた。

10:10

3 特例許可作業の改善　ライン内安全対策

日本製鉄㈱ 瀬戸内製鉄所 阪神地区(堺)
薄板部 堺冷延めっき工場 めっき課 一般
川野 レオ

当社では、機械の安全化を推進しており、私たちは、リスクを数値化し重篤度の高い設備を優先して活動した。柵の設置で大幅にリスク低減できたことなど、小集団活動を通じて様々な問題を皆で試行錯誤しながらも乗り越え、達成感と成長の軌跡を紹介する。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

4 足回り部品　サビ取り作業のRA活動

㈱小松製作所 特機事業本部 特機製造所
工作部 工作一課 一般職
齊官 寛明

オーバーホール部品の錆取りは、振動工具による疲労・騒音・粉塵から健康障害が懸念される苦渋作業だった。今回、新人スタッフが環境に優しく安全な除錆剤を発掘。協力企業等のノウハウも参考に温湿度等の最適条件を模索し、除錆剤の効果を最大限に引き出す方法を確立した。

11:00

5 作業計画検討会（SKK）の取り組みについて

㈱ レールテック
金沢調査監理センター 技術リーダー
時長 潤

当社では作業前に作業計画検討会（SKK）を実施しているが当事務所で墜落事象が発生。本事象を踏まえ安全性向上を目的に独自の取り組みを取り入れる等の SKK 改良を重ねた結果、不安解消・コミュニケーション増による安全性向上の成果が見られた。その取り組みと成果を紹介する。

11:20

6 確実な列車待避の実施に向けた取り組み

西武鉄道㈱ 工務部 上石神井保線所
副所長
福田 純

線路内作業は常に危険がつきものであり、触車事故は絶対に起こしてはならない。上石神井保線所では 2021 年度協力企業で 1 件の待避遅れを起こしてしまった。この発表では同様の事故を起こさないよう、安全対策に取り組んだ内容について紹介させて頂く。

11:40

7 リスクアセスメントと化学物質リスクアセスメントを組み合わせた効率的な運用について

三菱重工サーマルシステムズ㈱
総務部安全保安グループ健康管理チーム 主席チーム統括
久保 卓也

弊社ではリスクアセスメントと化学物質のリスクアセスメントを各々に実施している。化学物質リスクセスメントで特定された危険性又は有害性について、効果的にリスク低減措置が図れるよう２つのリスクアセスメントを組み合わせた効率的な運用事例について発表する。

12:00

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

（12:00 ～ 13:00 昼休み）13:00

シンポジウム

シンポジウム「安全経営あいち®」

第１部：基調講演「愛知労働局が提唱する「安全経営あいち®」」

愛知労働局 労働基準部 安全課長　濵田 勉

第２部：パネルディスカッション「PQCDSMEは、ひとつにできる」

パネリスト
愛知労働局 労働基準部 安全課長　濵田 勉
トヨタ自動車㈱ 本社 安全健康推進部　部長　鎌田 祐子
日本製鉄㈱ 名古屋製鉄所　安全環境防災部　部長　江口 栄司
㈱物語コーポレーション 本社 管理本部総務企画部　部長　浦野 龍一

これまで、労働安全衛生管理の手段と捉えられていたリスクアセスメントは、そのプロセスに現場の実態把握を含めていることから、これを通じて経営視点である PQCDSME を並列かつ一体的に捉えて行くことができる。すなわち、リスクアセスメントを通じ、安全性、生産性、品質、原価、納期等を同時に高めていくことが可能であり、さらに企業価値をも向上させる戦略的手法とすることができる。愛知労働局は、この理念を「安全経営あいち®」として提唱し、官民を挙げた取り組みとしている。パネルディスカッションを通じて、本質に迫る。

15:30

9月29日（金）　プログラム（9:00開場）

9:30

8 評価のバラつきを抑えるための危険源毎判断ガイドを使ったリスクアセスメント

理研計器㈱
エンジニアリング部 安全管理課 係長
川窪 邦督

一般的なリスクアセスメント（ＲＡ）では、実施メンバーの知識・経験に左右されバラツキが大きく、対策レベルに差が生じてくる。そこで、ケガの「程度」「可能性」を定量的に判断できるガイド表等を独自に作成し、本年度から評価のバラツキを抑えたＲＡを展開しているので紹介する。

9:50

講演

働く人のウェルビーイングの見える化と行動分析学的手法による職場の改善

国立大学法人 長岡技術科学大学
技学研究院 システム安全系 システム安全工学専攻
北條 理恵子

昨今、安全・安心だけではなく、「働きがい」や「意欲」についても事業所が責任を担うことが当たり前になっている。SDGs 等の世界の潮流もあり、企業はこぞって「ウェルビーイング」を高める活動を目指している。本講演では、ウェルビーイングの現状の見える化、評価法、改善のための手法を紹介する。

（10:50 ～ 11:00 休憩）11:00

9 フォークリフト　ピカピカ活動による職場安全の推進

日産自動車㈱ 栃木工場
第二製造部 第一鋳造課 技能員
久米 文明

フォークリフトによる接触事故が多発してきている。フォークリフトを多数使用しているが、修理費用が多く発生している。そこで、危険の感受性を高める活動として、フォークリフトをピカピカにすることで、フォーク作業の妨げになるリスクを改善し、作業者の安全意識が向上した。

11:20

特別報告

安全とは？リスクとは？
－危険源を軸にした客観的なリスクアセスメントの運用－

日本特殊陶業㈱ ビジネスサポートカンパニー
環境安全部 安全衛生推進課 主任
川北 崇裕

個人の主観に頼った KY 的なリスクアセスメントから脱却するため、危険源を軸とした客観的なリスク評価に取り組んでいる。リスクの評価方法だけでなく、安全やリスクに対する考え方の教育など、事例を交えて紹介する。

（11:50 ～ 12:50 昼休み）12:50

特別報告

アクションカメラを用いた安全活動推進

日本製鉄㈱ 名古屋製鉄所
安全健康室 班長
鈴木 浩之

名古屋製鉄所内の様々な職場でアクションカメラ（ヘルメットや身体に装着して使える小型カメラ）を活用した改善が進められてきている。安全健康室により、希望職場や災害発生職場へ貸し出しを実施し、現場実態把握のツールとして活用推進を図ってきており、今回、活用事例を紹介する。

13:20

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

（13:20 ～ 13:30 休憩）13:30

特別報告

官民一体となったリスクアセスメントの推進　～伝承を大切にした西尾モデルのご紹介～

旭鉄工㈱
総務部総務室 室長
日下部 信介

監督署・協会・当社の安全相互確認会で、改めて、リスクアセスメント導入背景は「大きな災害防止」と「後世への伝承」であることを確認したが、この 16 年を振り返ると必ずしもそうなっていない。その対応として官民共同で特に後世への伝承で協議し実践した内容をご紹介させていただく。

（14:10 ～ 14:20 休憩）14:20

特別報告

継続的かつ全員参加によるリスクアセスメント活動

コクネ製作㈱
代表取締役社長
宮島 佑介

安心・安全な職場づくり目指し、製造業の大きな課題である動力挟まれ・巻き込み問題に着目し、危なさとちゃんと向き合い、全員参加にて継続的に活動しやすい内容にて実施できる取り組みを模索・研究してきた。

14:50

第３展示館に
「ISO45001/JISQ45100 認証取得の無料相談コーナー」開設！

安全管理活動分科会（第１会場）

会 場　ポートメッセなごや　第３展示館

9 月 28 日（木）　プログラム（9:00 開場）

9:30

1 重筋作業廃止による女性が活躍する生産ラインの構築

ナブテスコ㈱ 垂井工場
製造部 第一製造課 一般職
杉岡 良樹

本活動の対象職場は 20kg を超える部品のアッセンブリを行う職場である。工程の制約上クレーンが使用できず、部品を持上げて横方向から組付ける必要があり、重量物による災害リスクが高い職場であった。本活動では上記の問題点を解消し、女性が主となり活躍できる職場となった。

9:50

2 安全衛生パトロールを通じた好事例の横展開

㈱ダイフク 滋賀事業所
安全衛生管理本部 安全推進部
森本 美紀

主要拠点の事務所の安全衛生パトロール時に、各職場で安全衛生に関する良い活動について情報共有を行い、地区をまたいだ職場環境改善の活性化に取り組んでいる。年間で最も優秀な職場に対し模範職場表彰など、安全に対する意識の向上を目指す当社の活動について発表する。

10:10

3 安全パトロール委員会を起点とした職場の安全管理・職場安全活動の推進事例

東日本旅客鉄道㈱ 尾久車両センター
主任
山本 栄一郎

鉄道の安全を検修サイドから支えるためには安全かつ快適な職場風土が必須であり、その実現策の一環として月に一度の安全パトロールを実施している。作業箇所、方法、環境等の視点で課題や問題点を抽出・共有・解決するサイクルを繰り返し、風通しの良い職場づくりを目指している。

10:30

安全管理活動分科会（第1会場）

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

4 「誰も見ていない時でも安全に行動する」先取り安全の取り組み！
NTTインフラネット㈱ 東日本事業本部 関信越事業部
安全推進室 室長
菊池 孝浩

これまで直営作業では無事故を継続中であったが昨年秋に人身事故が発生した。決められたルールを守らなかったことが原因であった。「誰も見ていない時でも安全に行動する」ことを目標に掲げ、自組織のSafety リーダー６名と連携して取り組んだ先取り安全の取り組みを紹介する。

11:00

5 リスク排除とカイゼンを重視した災害防止検討の充実
東京電力パワーグリッド㈱
業務統括室 安全マイスター
佐古 昌彦

重篤災害の再発防止対策を分類した結果、作業員の行動に依存する対策が大半を占めていた。被災者を責める前に、安全な環境の提供や、自然に危険を避けるルールの構築を目指して、対策立案の考え方・検討体制の整備および、検討スキル向上の為の人材育成の取り組みを報告する。

11:20

特別報告

産業安全の現状と課題　～第14次労働災害防止計画初年度の取り組み等について～
厚生労働省
安全課長
小沼 宏治

令和５年度は５カ年計画である第 14 次労働災害防止計画の初年度である。労働災害発生状況を踏まえて、皆さまの職場で取り組んでいただきたい安全管理活動について厚生労働省の取り組みとともに紹介する。

（11:50 ～ 12:50 昼休み）12:50

6 アンケートを活用した実態把握と安全意識の浸透
日本製鉄㈱ 本社
安全推進部 部長
朱宮 徹

当社では安全に関する現場の実態を把握するためにアンケートを積極的に活用している。アンケートは実態把握だけでなく、それを作る人の意志を伝達する手段としても有効である。ここでは当社が行っているアンケートの作り方、活用方法について紹介する。

13:10

7 運行管理のリスクマネジメント
東日本旅客鉄道㈱
新幹線統括本部 新幹線総合指令所 主務
上辻 亮

大規模な輸送障害が発生した場合、列車毎に編成が異なる特性のため急遽の運転計画が複雑で、その計画に時間を要していたためお客さまが各駅で滞留しホーム等が危険な状態になることがあった。リスクマネジメントとして早期に運転計画できる手法を確立し、その手法を水平展開した。

（13:30 ～ 13:40 休憩）13:40

8 危険の見える化による労働災害防止
小田急電鉄㈱
工務技術センター 喜多見工務区 保線副班長
後藤 憲一

線路内作業における労働災害を防止するため、過去に発生したヒヤリハット事例や所属員全員を対象に実施したアンケートの結果を活用し、リスクアセスメント手法により「危険の見える化」を行うことで、作業時におけるリスク低減を図った。その取り組み内容と成果について紹介する。

14:00

9 災害ゼロを目指した安全感性の高い職場、人づくり（４Ｓ５定活動）
トヨタ自動車㈱
安全健康推進部 安全衛生支援室 安全企画Ｇ 主任
渡辺 拓也

災害未然防止には、作業者一人ひとりが危険を危険と感じる高い安全の感性が必要である。構内で作業頂く仕入れ先様の災害ゼロを目指して、4S5 定活動という手段を通じて、正常と異常のみえる化をすることで、異常に気づき、アクションできる安全感性の高い職場、人づくりを行う。

（14:20 ～ 14:30 休憩）14:30

10 労働災害ZERO　～労災ゼロにより明るく楽しい誰もが生き生きと仕事ができる職場に～
京王電鉄㈱
鉄道事業本部 鉄道営業部 富士見ヶ丘乗務区 乗務主任
中川 智宏

当職場では「労災ゼロ」を目指し、終端駅での安全衛生職場委員による注意喚起、職場内「情報提供モニター」「掲示板」を活用した労災防止啓発の情報発信、そして労災時の負傷箇所が「足」であることに着目、運動機能低下防止策にも取り組み、労災発生件数対前年減を達成した。

14:50

安全管理活動分科会（第1会場）

14:50

講演

安全文化診断を活用した安全文化醸成の現在と未来

新潟大学
工学部 協創経営プログラム 准教授
東瀬 朗

安全文化診断は大手素材・化学・インフラ業界を中心に広く活用が進んでいる。本講演では安全文化診断活用10年の歴史を振り返るとともに、大学が蓄積した各種データに基づき、各社での活用状況並びにデータ分析の結果摘出された課題と今後取るべき方策について紹介を行う。

15:50

特別報告

AGCにおける安全文化診断を活用した安全文化醸成の取り組み

AGC㈱
環境安全品質本部 環境安全部長
倉田 浩

当社は仕組みを整える・リスクを下げる・安全意識を上げる、を３本の柱として安全活動に取り組んでいるが、各施策の浸透・定着には安全文化醸成が重要であり、安全文化診断を活用した改善活動を展開中である。その活動内容と診断結果をマネジメントに生かした例を紹介する。

16:20

9月29日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

11

メッキ加修自動化による作業ストレス低減活動

㈱小松製作所 粟津工場
コンポーネント部組立課 一般
滝上 裕之

ストレスに着眼した新たな活動として、ストレスを見える化しメッキ加修作業のストレス低減に取り組んだ。メッキ加修作業では、長時間単調な手作業などがストレスの要因となっていたが、自動化することによってストレス低減することが出来た。

9:50

12

凡事徹底による安全活動　～思考と考動を安全第一にできる人財づくり～

トヨタ自動車九州㈱
安全健康管理部 安全衛生推進室 グループ長
本間 幸貴

災害の下げ止まりが続く中、会社方針に「凡事徹底」を掲げ安全活動を推進。安全に働く上で基本となる「決めた事、決められた事を守る」、「全ての基本は４Ｓ＋躾から」をキーワードにわかりやすく腹落ちしやすいルールや活動を展開。現在も継続中だが、その取り組み内容を報告する。

10:10

13

「リアル版とっさの判断トレーニング」による触車事故撲滅の取り組み

九州旅客鉄道㈱ 小倉電力区
電気技術係
井筒 晴海

弊社では、感電・墜落・触車（列車との衝突）を３大労災として撲滅に取り組んでいるが、触車については教育ノウハウが他と比較して格段に少ない。これまで過去事例からとっさの判断力に着目して机上教育を実施してきたが、今回はとっさの行動力にも着目し実践的な取り組みを実施した。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

講演

多様化が進む社会の中での安全衛生管理を考える

(公財)大原記念労働科学研究所
特別研究員
福成 雄三

人材、働き方、情報、経営、グローバル化をはじめとするさまざまな面で「多様化」が注目されており、安全衛生管理を含めて、的確な対応が求められている。このような状況の中での安全衛生管理面の課題の捉え方と課題への対応に必要な視点を考えてみる。

（11:40 ～ 12:40 昼休み）12:40

特別報告

令和5年度日本化学工業協会　安全最優秀賞受賞事業場　デンカ㈱渋川工場の安全活動　～重大災害ゼロを目指して～

デンカ㈱ 渋川工場
執行役員 渋川工場長
野口 哲央

当工場は、2016年に重大災害を発生させた苦い経験があり、その教訓の下、設備の本質安全化に真剣に向き合い積極的な安全投資を実施し、同時にコミュニケーションを主体とした特徴ある安全活動を展開することで、現在７年間休業災害ゼロを継続中。それらの活動内容を紹介する。

13:10

安全管理活動分科会（第1会場）

13:10

14 非定常作業に対するリスクアセスメントの強化　～非定常作業に特化した活動～
㈱ダイヘン 十三事業場
総務・法務部安全・施設管理課 一般社員
太田 恵子

過去の災害を分析すると、非定常作業時に多く発生しており、その大半がリスクアセスメント表に盛り込めていないことが判明。今年度の重点課題として、非定常時の作業リスクをパターン化し、チェック表を用いることで抽出漏れのない仕組みづくりと、災害の未然防止に取り組んだ。

13:30

15 「現場リスクの掘り起こし」にこだわった「死傷事故ゼロ」に向けた取り組み
東日本旅客鉄道㈱
首都圏本部 東京機械技術センター 主任
池上 成彦

自職場の発注工事において請負会社と協力し、事故防止に努めた。主たる作業のみでなく、作業の準備、後作業の場面における作業リスクをより集中的に掘り起こし、事故防止対策を検討することで、小さなリスクも見落としなく洗い出し、死傷事故ゼロを達成した。

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

16 安全・安心の工場づくりを目指して“安全文化醸成へのチャレンジ”
㈱リコー CMC事業本部 沼津事業所
CMC事業本部 事業統括センター
事業企画室 ESG推進G 担当
大沼 祐樹

背景　従業員が、安全、安心でイキイキと働ける工場を目指すために、安全を文化として根付かせるための本質的な安全活動に取り組んだ。
活動　・安全意識度を可視化し向上させた活動
・デジタル活用による新KYTプロセス展開
・VR活用した新安全体感教育
結果　・労働災害ゼロ減少に寄与

14:20

17 「チーム小牛田」で安全を創る取り組み
東日本旅客鉄道㈱ 東北本部 小牛田保線技術センター
線路２科 主任
岡 賢一

当社は「グループ安全計画 2023」を発表し、一人ひとりの安全行動のレベルアップを図り、究極の安全の実現に向けた指針を定めた。当事業所では「あぶない・ありがとう」というコンセプトワードのもとパートナー会社、協力会社との３社合同で安全を創る取り組みを実践している。

14:40

18 作業負担の低い職場と快適作業環境の実現にむけて
㈱アーレスティ
安全環境部 主幹
伊藤 剛

安心・安全で心身共に健康で働きやすい快適な職場づくりを目指した。特に、肉体的な作業負担の低減、職場の温度（暑さ、寒さ）の改善や職場の騒音対策をテーマとした。今回は、取り組んだ内容について発表する。

15:00

安全管理活動分科会（第2会場）

会 場　ポートメッセなごや　交流センター　３階会議ホール

9月28日（木）　プログラム（9:00開場）

9:30

1 鉄鋼商社におけるグループ会社の安全管理活動支援　～トラックからの墜落防止設備の開発
阪和興業㈱
品質安全環境管理部 部長
山中 敏郎

M&A 等で増加を続ける弊社のグループ会社の内、鉄鋼製品の加工・鋼材の荷役作業・建設事業等を行っている国内約 50 社、海外約 10 社の安全管理について、各社の“安全文化”の違いを課題としながら、グループ全体の安全レベル向上を目指して実施している取り組みを報告する。

9:50

安2 安全管理活動分科会（第2会場）

9:50

2 過去労災の解析法と解析結果の活用

三井化学㈱
ライフ＆ヘルスケアソリューション事業本部 企画管理部
主席部員

倉田 洋行

2020年度に発生した労災の殆どは、過去の労災と類似或いは同様の労災である事が分かり、過去の労災の教訓を活かす活動を開始。労災情報の解析方法を立案し、解析結果から得られた「作業に関するリスク」「人の意識に関するリスク」を使い、危険予知支援システムを構築した。

10:10

3 災害を発生させないための「安全意識向上」

三菱自動車工業㈱ 岡崎製作所
工作部 板金樹脂課

佐藤 洸紀

2021年に自職場で発生した災害を機に二度と同じ事を繰り返さないための活動を行った。新人への初期教育やベテランへの意識向上など多岐に渡り様々な施策を行い職場の全体活動に繋がった。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

講演

人生も仕事も目標達成の繰り返しで上手く行く

カレーハウスCoCo壱番屋 創業者

宗次 徳二

真逆のような事態が連続し、厳しい状況が続く中、不確実な中にあっても、企業は何としても勝ち残らねばならない。個人においても、日々流されることなく、明確な目標を持ち、その達成に向け、前向きに希望を持ち、たゆまぬ努力を続けることで、後悔の少ない人生となるのである。

11:40

4 設備・人の観点から進める労働災害防止の取り組みについて

山崎製パン㈱ 名古屋工場
人事課 一般職

宮寺 雅弥

当工場では、「安全パトロール」による危険箇所の設備改善、「安全日誌」で従業員から報告のあったヒヤリハット・チョコ停の改善、全従業員参加の「安全研修」を通じた安全意識の向上といった各種安全衛生活動を連動させ、労働災害の撲滅に努めた。

（12:00 ～ 13:00 昼休み）13:00

5 京都建築作業所における安全衛生活動への取り組みについて

名工建設㈱ 大阪支店 京都建築作業所
作業所長

廣内 真人

本作業所では、鉄道工事の施工により列車運行及び旅客への影響がないよう、弊社の「安全への取組骨子」に基づき、事故防止の重点施策を確立するための「ルールを守る、守らせる環境づくり」に向けた具体的な取り組みついて発表する。

13:20

6 コロナ禍での大型定修における安全衛生の取り組み

住友化学㈱ 千葉工場
環境・安全部 安全衛生チームリーダー

清野 守

住友化学千葉工場では、４年に一度全プラントを停止し大型定修工事を実施している。昨年の大型定修は、新型コロナウィルス第６波の中での実施となったが、工事協力会社を含めた安全衛生管理を徹底する事で大きな問題もなく完遂できた。具体的な安全衛生の取り組みについて紹介する。

13:40

7 安全戦略！自らの成果・成長について

西日本電気テック㈱ 米子支店
浜田MC 所員

永嶺 孝治

当事業所では鉄道電気設備のメンテナンス、修繕工事を中心に業務を行っており、その中で生命に係わる鉄道重大労災の「感電、墜落、触車」を防止するためのツールとして、ウェアラブルカメラを５年前から導入している。今回ルール･手順の実行度確認や映像の活用例を紹介する。

（14:00 ～ 14:10 休憩）14:10

特別報告

安全対策の経済的評価に関する調査研究の検討結果

(国研)産業技術総合研究所
安全科学研究部門 爆発利用・産業保安研究グループ
主任研究員

牧野 良次

本調査研究では企業が自ら安全対策の経済的評価を事前にかつ簡便に実施できるよう支援することを目的とし、方法論を整備するとともに評価ツールを作成して公開した。本発表では調査研究の内容を紹介し、評価ツールの使い方を説明する。今後の展望についても言及する。

14:40

安全管理活動分科会（第2会場）

14:40

8 見逃すな災害の芽・広げよう安全の輪 ～工事災害リスク「0」活動～
日産自動車㈱ 追浜工場
工務部工務課 一般
山名 頌

2022年度、自分たちで決めた活動を滞りなく実施することで無災害の継続に貢献してきた。一方、長期連続休暇工事で社内安全基準を守れていない事案が外部協力企業へ発注した工事で多発していることから更なる安全作業を確保するため行った工事災害リスク「0」活動を紹介する。

（15:00 ～ 15:10 休憩）15:10

9 人の心から安全を築く
西武鉄道㈱
車両部 玉川上水車両所 副所長
川副 翔吾

作業者が職場で遭遇するストレス場面を、デジタルデバイスを活用して調査を実施した。調査結果から、同様のストレス場面に遭遇しても平常心で安全に対応できることを目的に、教育をはじめとするソフト対策および設備改修によるハード対策を施した。前述の内容について、発表する。

15:30

10 「安全活動サポート」と「災害再発防止検討プロセス」による現場支援活動
中部電力㈱
安全健康推進室 安全推進グループ スタッフ課長
星合 秀樹

2021年度に当社の安全健康推進室に社内で養成、配置された「安全専門員」の現場支援活動の一環として、2022年4月から運用を始めている各事業場に“気づき”を促す「安全活動サポート」と災害が発生した際の「災害再発防止検討プロセス」の取り組み等について報告する。

15:50

11 高勾配箇所での電線取替作業に関するリスクと対策
西日本電気テック㈱ 和歌山支店
新宮MC 所員
瀧岡 郁人

弊社では鉄道電気設備の検査や工事を行っている。施工内容は様々であるため、その作業中止判断には現場指揮者の経験値による個人差がある。その差を無くすためには具体的な判断指標を確立することが必要であると考え、協力会社社員の声を集めながら取り組みを行ってきた。

16:10

9月29日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

12 過去災害からの安全活動の取り組み
日産自動車㈱ 栃木工場
第三製造部 第三工務課 工長
石渡 諒

機械加工で発生させた災害を振り返り分析すると経験年数が低い方の災害が多いことが分かった。若手の危険感受性向上を図るため一般層パトロールの実施、作業観察を工夫し不安全行動・状態を見つけ対策につなげる。

9:50

13 連鋳職場重大リスク作業低減取り組み
日本製鉄㈱ 関西製鉄所
製鋼部 和歌山製鋼工場 スラブ連鋳課 班長
山口 経秀

連続鋳造におけるクレーン玉掛作業は、挟圧・転落等の重篤な災害につながる可能性が高く、当該作業のリスク低減が職場内における長年の課題であった。様々な課題にぶつかりながら地道に改善を続けたことでリスク低減を達成し、取り組みを通して職場全体の安全レベルも向上した。

10:10

14 製鉄設備の整備工事における工事開始前の安全確保に関する取り組み
日本製鉄㈱ 本社
安全推進部 部長代理
佐野 嘉一

製鉄所には大小様々な生産設備があり、危険有害性のあるガスや溶剤を含む設備も多い。日常的に行われる設備の整備工事においては、作業者がそのリスク環境に晒されないよう、工事開始前に安全な作業環境を確保することが重要である。ここでは当社が行っている管理手法を紹介する。

10:30

安2 安全管理活動分科会（第2会場）

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

15 鉄道保守機械検修業務における高所作業での墜落防止の取り組み
㈱レールテック 近畿支店
機械部 技術リーダー
三木 康隆

大型保守用車の高所（3.8 m）作業時には墜落制止用器具を使用しての安全確保が最重要であるが法令に沿った使用が出来ない保守用車があるため、検討を積み重ね手順書を作成した。更なる安全対策として保守用車の両サイドに衝撃緩和マットを敷き墜落時の受傷軽減対策を図った。

11:00

16 SFPM（Safety & Fire Prevention Map）の展開について
豊田合成㈱
安全健康推進部 室長
佐藤 順一

豊田合成㈱グループの国内外での重大・重篤災害、火災の撲滅とその土台となる安全防火活動の指標と指南をグローバルで展開している。言葉・文化・社風の違いを組み入れながら指標と指南をもとに各会社、各工場、各工程、各作業の相互啓発による活動向上と活性を図った。

11:20

17 品質を落とさず、「見逃し、見過ごし、見て見ぬふり」と向き合った安全最優先の作業改革
有楽製菓㈱ 札幌工場
生産２課 係長
川島 怜子

「見逃し、見過ごし、見て見ぬふり」により労災は発生していた。製品の品質を落とさず、安全を最優先とし、省人化と重筋作業の軽減に着目した取り組み内容を発表する。

11:40

18 新幹線熊本保線所の発生事象と事象に対する取り組みについて
九鉄工業㈱
熊本支店 新幹線熊本保線所 課長代理
増山 直樹

2021 年度新幹線熊本保線所で発生した労働災害「樹脂が飛散し目に入った」で従来のやり方を見直し、ハード的に樹脂が飛散しても対象者に飛散しないような施工方法を取り入れることによって、更に安全に施工できる取り組みを紹介する。

（12:00 ～ 12:50 昼休み）12:50

講演

リスクと行動・習慣からアプローチする職業高齢ドライバーの安全管理について
東京海上ディーアール㈱
主席研究員
慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 特任准教授
北村 憲康

加齢に伴い増加する事故パターンを特定し、それらに共通する高齢ドライバーのヒューマンエラーの急所となるポイントを解説する。対策では、重要リスクを含む交通環境下での安全確認の方法から、運転に限らない行動・習慣の変化にも注目し、職場での安全管理の在り方を述べる。

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

19 現場・管理側相互コミュニケーションによるリスク抽出に向けた取り組み
㈱JR西日本テクノス 吹田支店
安全品質管理部 品質課 課長
宗田 佑輔

JR 吹田総合車両所からテクノス吹田支店へ業務移管が計画的に進められていることに際し、JR と合同でリスクを抽出・改善していく仕組みを構築した。また、現場からの情報収集方を工夫し、それらをうまく水平展開することで社員の安全確保にむけた取り組みを推進した。

14:20

20 「事故の芽」提出の継続達成について
西武鉄道㈱
電気部 飯能電気所 副所長
小柴 誠二郎

ヒヤリハット、すなわち事故となり得る危険の芽（＝事故の芽）を摘んでいくことに力を入れ社内表彰もされている。この「事故の芽」が過去に渡り、なぜ常に高い提出率を継続しているかについてアンケートを基に分析・評価し、改めて安全に対する重要性を認識できた。

14:40

安2 安全管理活動分科会（第2会場）

（14:40 ～ 14:50 休憩）14:50

21 駅構内作業の安全度向上について
東海旅客鉄道㈱ 東海鉄道事業本部
岐阜保線区 施設技術係
奥村 晃至

当社では、線路内立入時に列車進来を把握する専任の者「列車見張員」を配置している。駅構内は、様々な列車が両方向から進来するため、触車事故等の危険性が高い。そこで、列車見張員が駅信号扱所でモニターを監視し進路構成を把握することで、安全度の高い保安体制を確立した。

15:10

22 こ線橋架設工事の安全の取り組み
名工建設㈱
土木部 主任
俵 想太郎

本工事は JR 飯田線直上を含む３径間の上部工新設工事である。施工時における残存リスクの排除を目的とした①効果的な KY 活動の実施、②作業輻輳時の作業間調整の見える化、③高所作業の残存リスクの摘み取りなど積極的に実施してきた対策について発表する。

15:30

安全管理③

交流センター１階に
「職場の安全と健康　無料相談コーナー」
「中災防　図書・安全衛生用品　即売コーナー」
「愛知県下労働基準協会コーナー」　開設！

安3 安全管理活動分科会（第3会場）

会 場　ポートメッセなごや　イベント館　２階イベントホール

9月29日（金）　プログラム（9:00開場）

9:30

1 製造現場に寄り添ったエイジマネジメント活動
トヨタ自動車九州㈱
安全健康管理部 ヘルスケアセンター 一般
髙野浦 里奈

製造業における労働者の高年齢化問題が顕在化。「いつまでもいきいきと働き続けられる人・職場づくり」を目指して、現場に寄り添ったエイジマネジメント活動を本格的に実施。現場・人事・生産管理部門と協働し、健康施策のためのトライを実施した成果などをご報告する。

9:50

2 「転倒等リスク評価セルフチェック票」を活用した転倒災害の未然防止
豊和工業㈱
技術部技術二課 課長
草野 高志

当社では過去３年間で５件の転倒災害が発生しており、この内の３件が休業災害であった。また、５件全てが高年齢従業員（50 歳以上）の災害であった。今後、益々従業員の高齢化が進んでくることが予想され、転倒災害の未然防止が求められていた。

10:10

特別報告
愛知における労働災害の動向と施策
愛知労働局
労働基準部 安全課長
濵田 勉

愛知における労働災害の発生状況と第 14 次労働災害防止推進計画の実施事項について紹介する。特に製造業、建設業向けの重点事項や、第三次産業向けの＋ Safe 協議会について報告する。

10:40

安3 安全管理活動分科会（第3会場）

（10:40 ～ 10:50 休憩）10:50

3 「治療と仕事の両立支援」体制の構築と更なる取り組みへ向けて

トヨタ自動車㈱
安全健康推進部 オフィス職場支援室 技術領域健康支援Ｇ
一般

冨永 さやか

がん患者の約３人に１人は就労可能年齢で罹患しており、仕事をしながら治療をすることが一般的になってきている。働き方改革実行計画においても、国が講じるべき施策の１つとして明確化されている「仕事と治療の両立支援」について、弊社における取り組みと今後の展望を報告する。

11:10

4 ダイバーシティの推進に向けて　～女性の活躍の場を広げる重量物改善～

㈱小松製作所 小山工場
生産技術部 治工具課 工具センタ 一般

稲垣 麻美

グループ安全活動方針の「ダイバーシティ」の実現に向け、手扱い作業を重量・運搬距離・姿勢の視点で分析・改善し、女性リーダーが中心となり工場ルール以上の基準である「重量 10kg以上の手持運搬・前かがみ作業の廃止」を達成。誰もが安全・安心で働ける職場づくりを実現した。

11:30

5 女性特有の健康課題理解に関する研修の試み

広島ガス㈱
人事部人事企画グループ 保健師

山下 理子

当社では女性活躍推進支援を策定し、女性の配属先が多様化している。これまで男性のみが行っていた特定業務（深夜業）や、ガス製造所勤務に女性が参画している。女性が働き続けることができる職場を目指し、女性特有の健康課題の理解向上のための研修を行い、その効果を検証した。

（11:50 ～ 12:50 昼休み）12:50

6 コロナ禍だからこそ実現した、地域にやさしい公共交通となるための認知症研修

豊橋鉄道㈱
総務部 係長

赤川 景子

この研修は、認知症特性を知ったうえで対応を学ぶ内容で、高齢化により公共交通へのニーズが高まる中で、利用される方の安心・安全に繋がっている。今後も公共交通事業者として認知症の方が住み慣れたまちで安心して持続的に暮らすことができるまちづくりの一翼を担っていきたい。

13:10

7 海外工場の安全レベル向上活動

イビデン㈱
生産推進本部 安全衛生部 一般

シスター維佐子

海外拠点の安全管理は、一方的な情報伝達のみで、各社の課題や困りごとが把握できず、年間 50 件もの労働災害が発生していた。海外拠点に安全のキーマンを配置し、双方向のコミュニケーションを図ることを重点に会議のやり方を変え、労働災害件数を激減させることができた。

13:30

8 外国人労働者に伝わる「やさしい日本語」のススメ

㈱アカデミヤ
代表取締役

朱宮 裕子

日本で働く外国人は日本語を勉強してきているとはいえ、まだ言葉の壁は厚く、問題となることが多い。外国人への情報伝達を目的に考案された「やさしい日本語」を日本人が理解し、使うことで、危険や失敗はもっと簡単に回避できるはず。この取り組みを紹介する。

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

9 外国人技能実習生の安全衛生教育と生活指導の事例紹介

㈱アステム
安全推進室 主任

和久 智樹

人手不足解消の為、これまで延べ 32 人の外国人技能実習生を受け入れている。実習生が増えるにつれ日本語の習熟度が落ちたり、コロナ禍の制限による不満の蓄積等あったが、技能実習生に寄り添った教育や指導を通して相互理解を深め、安全衛生意識の向上に繋がった施策を紹介する。

14:20

10 ビル総合管理における安全衛生対策のデジタル・ネット基盤活用への取り組みと課題

日本管財ホールディングス㈱
顧問

前田 充康

ビル総合管理事業は、設備、清掃、警備の各スタッフが現場ごとにグループを組んで勤務している。安全衛生対策も、現場ごとに取り組まれる。そこで、当社では、デジタル技術を活用したネット基盤を活用した情報の伝達・共有化、研修等に取り組んでいる。現状と課題を報告する。

14:40

安全管理活動分科会（第3会場）

14:40

特別報告

スマホ型携帯端末を使用した「KYT活動」と全員参加の安全推進活動

㈱カインズ
販売本部 店舗安全対策 推進室 室長
坂田 昌之

・危険予知ができるメンバーを育成し、店舗での事 故を予見し未然に防止し 、従業員の安全を守る活動。
・パート・アルバイトを含めた店舗メンバー約 24,000 人に実施。
・労働災害の危険を過去の事例を交えてスマホ型端末を使った定期的な学習。

15:10

特別報告

安全動画の視聴による労働災害防止の取り組みについて

㈱デリシア
管理本部 人事・教育部 部長
北原 章裕

当社では毎年同じような労働災害が繰り返されており、入社時教育の教える側の教育の質や、教育を受ける従業員側の理解度の差に課題があった。その対策として安全動画を自社内で制作するに至った経緯と、その取り組み効果について紹介する。

15:40

機械・設備等の安全分科会

会 場　ポートメッセなごや　第１展示館Ｄ

9月28日（木）　プログラム（9:00開場）

9:30

1

粗ミル機内足場改善　楽々 OK ！トランスフォーム足場に歓声！

JFEスチール㈱ 東日本製鉄所（京浜）
設備部 熱延設備室 一般
太田 充紀

活動のきっかけは、圧延機内作業時に発生する開口部の養生に足場が必要であるが設備の停止位置により設置が出来なかったことである。今回は、何度も失敗しながらも、自由自在に変形する足場を考案し、設備停止位置に関係なく足場設置が可能となり安全に作業できるようになった事例である。

9:50

2

感電災害の教訓を生かした、新形状ライン側接地金具の開発について

㈱ユアテック 本社
電力インフラ本部 送電部 送電営業グループ 一般職
吉田 佑太

当社送電部門では過去に作業用接地のライン側接地金具が外れ静電誘導による感電災害が発生した。類似災害防止のため技術的な対策とし「電線外れ止め機構」と「ロック機構」を備えた新形状ライン側接地金具を開発した。本開発までの取り組みと製品の特徴について発表する。

（10:10 ～ 10:20 休憩）10:20

3

廃プラ中間処理施設の安全化事例 ～設備状態の見える化で作業者を守る～

J&T環境㈱
技術本部 設備部 鶴見設備室 部員
浪岡 朋也

プラスチック廃棄物の選別／梱包施設において、内部が見えないことによる操業ロスが発生するとともに、点検口の開放作業も安全上のリスクがあった。そこで、開放時は装置が自動停止する点検窓を設置するとともに、設置時の対話を通じて外国籍作業者の安全意識向上を図った。

10:40

4

協調安全に独自の物理的対策を加え、高所作業車のウェルビーイング向上について

大和ハウス工業㈱
技術統括本部 安全部 主任
森 朋仁

高所作業車上昇中に構造物や設備に挟まれる致命的な労働災害防止には、協調安全「Safety 2.0」を用いて物理的安全対策を施す事により、SDGs 目標８達成に向けた取り組みをし、安全・安心化によるウェルビーイングの向上をさせた取り組みを紹介する。

（11:00 ～ 11:10 休憩）11:10

講演

攻めの安全とは　～ヒューマンエラー防止に向けた管理者の持つべき視点～

（一社）日本金属プレス工業協会
安全・環境委員会 アドバイザー SRC研究所
塚原 利夫

ヒューマンエラーは、できの悪い人間のお粗末な行動の結果と捉えられがちであるが、それは決して正しい評価ではない。それはエラーを誘発する罠に嵌まってしまった結果と診るべきである。この罠、すなわちリスクと如何に戦うか、そのあるべき管理者の視点を考えてみたい。

12:10

機械・設備等の安全分科会

（12:10 ～ 13:10 昼休み）13:10

5 重力鋳造職場の安全性向上
カワサキモータース㈱
生産本部 エンジン製造部 加古川鋳造課 班長
仲 豪紀

重力鋳造職場全員の安全意識を向上させ、今まで「あたりまえに行っていた作業」に潜む不安全行動や不安全状態を抽出し、リスクアセスメントの手法を活用してリスクレベルの低減を図り、重大災害の防止と「安全で楽して働ける職場づくり」を実現することが出来た。

13:30

6 重量物を取扱う非定常作業に於ける災害リスク低減に向けた改善活動
ナブテスコ㈱
鉄道カンパニー 神戸工場 開発部 機構開発課 主任
勝田　直志

私たちの職場は重量物を取り扱う作業があり、その多くが非定常作業である。この非定常作業に於ける災害リスクを減らすため、作業方法を根本から見直し、安全性と生産性の両立を創意工夫のもと、低予算で抜本的安全対策に繋げた改善活動を紹介する。

13:50

7 CGL 亜鉛浴内沈殿物回収･搬出作業安全化
JFE スチール㈱ 西日本製鉄所
福山地区 冷延部 溶融亜鉛鍍金工場 4CGL 職場 一般
則貞 景介

CGL ラインで発生する亜鉛浴内沈殿物の回収･搬出作業は、クレーン･玉掛けや重機等の重大災害リスクが多数存在し、職場で最も高く危険な作業であった。沈殿物回収バッグの形状最適化や人と重機を分離する設備改善等を行ったことで作業リスクが低減され、安全化を達成した。

（14:10 ～ 14:20 休憩）14:20

8 史上最悪の作業に挑め！　～らくらくロール手入れへの道～
JFE スチール㈱ 西日本製鉄所（倉敷地区）
鍛造工場 一般
横溝 沙有理

鋼板の歪不良を平坦な鋼板に仕上げるための矯正設備で、設備内の矯正ロールに疵が発生すると矯正を行った鋼板に疵が定ピッチで転写するロール疵が発生する。そのロールの疵を除去するために行うロール手入れ作業の危険を排除、安全で誰でも簡単に作業出来る本質安全化に成功した。

14:40

9 その作業、何歳までできますか？なくすぞ人力作業！
JFE スチール㈱ 東日本製鉄所 千葉地区
熱延部 熱延工場 ダウンヒル グループ 一般職
柳瀬 良介

現場の人力作業の中で、特に力を必要とする作業であった予備バンドの移動は、シニアの方には負担が大きい。今後の現場の高齢化も考え、人力での作業をなくしていく事を前提に、取り組んだ改善である。

15:00

10 垂直昇降型高所作業車の手指はさまれ防止対策
㈱ユアテック 東京支社
設備課 一般
阿部 令

建築電気設備工事における垂直昇降型高所作業車使用時の労働災害は増加傾向にある。なかでも手指の「はさまれ」災害においては、有効な対策や製品が無かったことから、その対策品の製品化と社内ルールの策定を行った。製品化までを振り返り、社内の取り組みについて紹介する。

（15:20 ～ 15:30 休憩）15:30

特別報告
安全分野における歴史災害の活用と機械の労働災害防止対策への展開
(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
前所長（現フェロー研究員）
梅崎 重夫

安全分野での歴史災害の例に、タコマ橋やコメット機の事故などがある。これらは後の技術開発や社会制度の改善に貢献した。同様に機械に起因する重篤な典型災害事例の抽出を行い、小規模事業場を対象に多発する重篤災害を防止する簡易リスクアセスメント手法を紹介する。

16:00

第1展示館Dに
「機械安全の相談コーナー」開設！

DX等分科会

会 場　ポートメッセなごや　第１展示館Ｄ

９月29日（金）　プログラム（9:00開場）

9:30

① 夜間広域警備への自動飛行ドローンの適用
武田薬品工業㈱ 光工場
EHS室 課長代理
伊藤 聡史

約100万㎡の敷地を有する製薬工場の夜間警備に、自動飛行を行う産業用ドローンの活用を試みた。自動飛行ドローンは、危険物等を取扱うエリアに対して、安全な高度からサーモカメラで広域監視することができ、特に夜間の防火警戒能力を発揮した。当社での検証結果を紹介する。

9:50

② デジタルツールを活用した安全衛生管理
（一社）日本自動車工業会
安全衛生分科会 Aグループ研究会委員（ヤマハ発動機㈱
安全健康推進部 EHS企画推進グループ 主務）
寺田 耕二

私たち産業界は、保管している安全衛生の記録が増大し続ける問題や、コロナ禍をきっかけとした働き方の変化に対応する課題に直面している。近年の技術革新によって普及し始めたデジタルツールを活用して課題を解決し、安全衛生レベル向上の為の各社の取り組みについて報告する。

10:10

③ 3D点群スキャナを用いた測定による感電リスクの低減
東日本旅客鉄道㈱
高崎支社 高崎電力技術センター
高崎電力メンテナンスセンター 係員
石井 亨承

車両センター構内の地上変圧器における高圧ケーブルの検査の際に誤って配電停止されていない回線の加圧部に接近し感電事故が発生した。今回、3D点群スキャナと呼ばれる、最先端の測定器を活用することで、作業員の感電に対するリスクの低減を目的とした取り組みを行った。

10:30

④ 医療職業務のPowerPlatformを使用したDX化の取り組み
トヨタ自動車㈱
安全健康推進部 健康安全DXグループ 一般
柿本 絵里香

感染対策や在宅勤務など業務の多様化により医務職の仕事も変化している。社会的変化の中、医務職の作業効率向上、人的ミス削減ため、現システムの汎用性の低さを補い、利便性を高めたPowerPlatformを使用したDX化に取り組む。

（10:50～11:00 休憩）11:00

⑤ デジタル技術を活用した個人用保護具適正使用の推進
AGCテクノグラス㈱
技術センター溶解成形グループ 製造班長
矢澤 英則

保護具の適正使用は事業場の安全活動の基本でありながら保護具の不適切な着用に起因する災害をゼロにできていない。今回リスク評価から抽出した「言い訳」をもとに、画像判別AIにより保護具着装の意識づけを行い、作業者の安全意識を「楽しく」向上させる事例について報告する。

11:20

⑥ IT技術を活用した事故防止の取り組み
東日本旅客鉄道㈱ 大宮支社
大宮信号通信設備技術センター 主務
山口 八郎

当社の安全の目標である「究極の安全」の実現に向け、労働災害や鉄道特有の事故を撲滅するべく、IT技術を活用したツールを導入し、教育訓練に対する理解の深度化や効果の長期化に取り組んでいる。安全に関する教育訓練におけるIT技術を用いた取り組み事例について紹介する。

11:40

⑦ 安全衛生データベースの構築
京セラ㈱ 鹿児島川内工場
川内環境安全部 安全防災課 班責任者
刀根 貫寛

作業場における適切な安全衛生管理を行う上で、機械設備・化学物質・作業者情報等を始めとする安全衛生に関する各種データの把握・管理が重要となる。本研究では、従来、単独管理していた各種データについてデータ同士を連携し、一元管理できるデータベースの構築を行った。

12:00

DX等分科会

（12:00 ～ 13:00 昼休み、13:00 ～ 14:10 労働劇、14:10 ～ 14:20 休憩）14:20

講演

フォークリフトに起因する労働災害発生状況および安全技術の取り組みについて

(一社)日本産業車両協会 業務部 次長
堀内 智

陸上貨物運送事業労働災害防止協会 安全管理士
堀野 弘志

(一社)日本産業車両協会 フォークリフト技術委員会委員長／㈱豊田自動織機トヨタL&Fカンパニー 製品企画部長
山田 忠

フォークリフトに起因する労働災害の発生状況について紹介すると共に、過去10年間の災害事例に基づく事故型別の傾向と発生要因、再発防止策等について分析。さらにこのような災害発生を防ぐために開発・装備されているフォークリフトの新技術についても詳しく紹介する。

15:30

労働劇

会 場　ポートメッセなごや　第１展示館Ｄ

9月29日（金）

13:00

労働劇

パワハラ防止劇 大事な社員を会社嫌いにさせないために

脚本・演出：(一社)名北労働基準協会 専務理事・事務局長 特定社会保険労務士 市之瀬高司
劇中解説：フローリッシュ社労士事務所 所長 公認心理師・シニア産業カウンセラー 特定社会保険労務士 新美智美
出演：愛知県下各労働基準協会 役職員

前回の愛知大会で、立ち見を含む分科会最多の1,800名が視聴した、労働基準協会職員等が演じる伝説の労働劇。敏腕営業課長よりパワハラを受けた社員の悲痛な叫び。会社の相談窓口、安全衛生委員会も充分機能せず、凄まじい労働審判に。全６シーンの迫真のパワハラ防止劇。

14:10

安全衛生教育分科会

会 場　ポートメッセなごや　第３展示館

9月28日（木）　プログラム（9:00開場）

9:30

1

ヒューマンエラーに特化した新入社員安全教育カリキュラムの構築

サンデン・リテールシステム㈱ 赤城事業所
総務人事本部 AP総務部 総務課 課長
大巻 良太

新入社員安全研修では、現場で働く為の基本行動や職場ルールを教育しているがそれでも毎年複数名、大なり小なり災害が発生していた。そこでカリキュラムをヒューマンエラー体験に特化した内容に変更した事で、不安全行動に対する理解度が高まり災害を大きく減少させる事が出来た。

9:50

特別報告

花王グループにおける安全衛生防災教育について

花王㈱
コーポレート戦略部門 危機管理・RC推進部
上塩入 伸之

労働災害を減少させるためには、リスクアセスメントとマネジメントシステムの運用、安全衛生防災教育の充実などが必要となります。本講演では、花王グループにおける安全活動、職長教育や残留リスクなど安全衛生教育、地震や水害に対する防災教育などの事例を紹介致します。

10:20

安全衛生教育分科会

10:20

2 新瞬間KYTによる危険感受性の維持・向上と背後要因を用いた職場リスク削減活動

日油㈱ 愛知事業所
環境安全管理室

小島 幸也

背後要因を活用した瞬間KYTの実施方法に改良を加えた新瞬間KYTを実施し、災害に至るシナリオを思いつく「想像力」を強化することで、危険感受性の維持・向上に欠かせない「気付力」の強化を図った。また、並行して背後要因を切り口とした職場リスクの削減活動を行った。

（10:40 ～ 10:50 休憩）10:50

3 コロナ禍で対応したリモート安全道場の教育実施

三菱自動車工業㈱ 岡崎製作所
管理部 安全衛生グループ 主任

澤村 弘

コロナ禍において当社では、在宅勤務や３密回避等により安全教育道場が使用し辛くなり安全教育方法を検討していたところ、グループ員より在宅勤務やPCから安全が学べるリモート安全道場を作る案が出された。2021年９月からの作成検討・作成編集・設置・活用までを報告する。

11:10

4 社内教育「ユーラク専門学校」の立ち上げから現在に至るまで　～学ぶ側から教える側へ～

有楽製菓㈱ 豊橋夢工場
生産部 生産三課 係長

岡本 智晴

中途入社をした私自身、ルール等様々な面で苦労した経験があった。新入社員に同じ思いをさせたくないとユーラク専門学校を立ち上げた。周囲を巻き込み、毎年入社２～３年目の若手20名が実際に起こったトラブル事例、専門用語や社内ルール等の講義を実施。今年で５年目となる。

11:30

5 安全の取り組みの核となる所内版「安全を担うフォアマン」の育成と活用

東日本旅客鉄道㈱ 東北本部 郡山総合車両センター
総務科 指導係

佐藤 隆英

めまぐるしく変化する環境下で、先取りの安全を実現するため、周囲の社員や職場を動かす「おもい」を重視した育成を行っている。
そんな「安全行動の推進力向上」を目的とした「安全を担うフォアマン」育成の取り組みによる成果と、今後の展開について紹介する。

（11:50 ～ 12:50 昼休み）12:50

講演

ほめるコミュニケーションが生む職場の活力とモチベーション

オフィスファイン 代表　ほめる感動経営コンサルタント
（一社）日本ほめる達人協会 特別認定講師
（一社）感動経営コンサルタント協会

中村 早岐子

ほめ達（ほめる達人）が伝える「ほめる」とは価値を発見して伝えること。職場だけではく、家庭や身近な環境でもすぐ実践できて効果が実感できるほめるコミュニケーションのコツをご紹介。新しく「ほめる」アプリを自分にインストール。

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

特別報告

サミットにおける労災事故防止の取り組み～現場が自ら取り組みだすために～

サミット㈱
人事部 マネジャー

安田 大輔

労災防止は、店舗と安全衛生担当の人事部のみで行われるものではない。店舗を統括する部署、それぞれの商品部など、いわゆる営業部署が自分事として取り組む事が重要。具体的に、営業部署が自分事として取り組んだ内容、また店舗が独自に取り組んだ内容をご紹介する。

14:30

6 危険体感巡回教育によるグループ安全衛生管理のレベルアップ

㈱フジクラ
EHS管理グループ 係長

小幡 博

危険感受性の向上を主目的に、2019年から危険体感装置をモバイル化し、国内の拠点間を定期巡回している。受講者の移動が不要、間接部門も参加し易い等の利点を活かし、多くの人を巻き込み、一体となった安全衛生管理レベルを高める活動につながったので、その概要を報告する。

14:50

安全衛生教育分科会

14:50

7 乗務員・駅社員を対象とした電力社員による感電事故防止教育「飛来物除去訓練」
東日本旅客鉄道㈱ 首都圏本部
鉄道事業部 電気ユニット（電力）主任
内村 和明

輸送障害時、乗務員・駅社員が飛来物除去対応をすることにより、鉄道の早期運転再開へ繋がる。しかし過去には、駅社員が架線付近での不用意な作業により感電傷害事故が発生している。本発表では、乗務員や駅社員を対象とした飛来物除去の安全教育・指導方について報告を行う。

（15:10 ～ 15:20 休憩）15:20

8 過去に経験した重大災害から事故の要因を探る
㈱三興
QMS/EMS管理室長
本田 純

安全レベルを高めるために、社員の「危険予知能力」、「危険回避能力」の向上が重要である。自分が体験した事故・災害等の経験を本人が語る事で、いかにも自分が体験したかのごとく、生々しい体験の記憶として印象付けられることを利用した方法を今回提案します。

15:40

9 安全意識改革による危険感受性向上活動
日産自動車㈱ 追浜工場
製造部塗装課 一般
伊折 零音

2017年以降、塗装課では軽微災害が連続で発生しており、特に経験の浅い期間従業員に多く発生していることが分かった。危険感受性・慣行性アンケートを実施しアンケートから見えてきた現状を踏まえ、安全知識・意識を高めるため安全受け入れ教育の改善を行った活動を紹介する。

16:00

9月29日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

10 レーザ加工現場における危険性と安全対策
山本光学㈱
開発部ビジョンケア・光研究所 所長
加尻 慎也

レーザ装置の高出力化と低価格化によりレーザの使用が拡大している。また、レーザクリーニング等の新たな用途も増えており、現場作業者の危険性が増している。その中でレーザ安全対策を目的とした「レーザ安全ワンストップサービス」の活動内容を報告する。

9:50

講演

スキルの可視化から始めるリスキリング～組織に必要な7つのアクション～
（一社）ジャパン・リスキリング・イニシアチブ 代表理事
SkyHive Technologies日本代表
後藤 宗明

2022年度の世界デジタル競争力ランキングでは、日本はついに29位まで順位を下げた。デジタル先進国との格差の原因は、人材のリスキリングを行なってこなかったことにある。最新のリスキリング手法に触れつつ、組織に必要な「7つのアクション」ついて解説する。

（10:50 ～ 11:00 休憩）11:00

11 選ばれる登録教習機関を目指して　～高齢者を活用した講習会の機能的運営～
（公社）愛知労働基準協会
教育事業部 課長
大鹿 時功

当協会は、事業場の講習会ニーズに応え、技能講習を始めとした安全衛生教育を多数開催している。受講生から選ばれる教習機関として、様々な改善活動を行い、安全で快適な受講環境の確保を図っている。その取り組み内容について紹介する。

11:20

12 新人の労災防止に関する研究について
東海旅客鉄道㈱
大阪台車検査車両所 車両係
神保 悠真

新人が受傷する労働災害が発生しており、作業に慣れてきた頃に見られる不安全行動や、周囲の作業者のスピードに合わせようとしたことで発生したと推察される。背後要因として、焦りや急ぎが発生する環境、新人特有の技能レベルの低さが挙げられ、解決に向けて取り組みを実施した。

11:40

安全衛生教育分科会

11:40

13 安全教育におけるVRの有効活用について

(一社)日本自動車部品工業会 安全衛生部会
調査・研究WG Bグループ 幹事
(NOK㈱ サステナビリティ推進室 EHS部 安全健康課 シニアエキスパート)
田邉 倫明

危険予知力を高める安全教育として、VR技術を活用した取組みがある。導入を検討するうえで、ハード、ソフト面での道具立て、費用、工数などを市場調査した。また、すでにVRの安全教育を導入している企業からは、その有効性と付帯効果についても知ることができた。

（12:00 ～ 13:00 昼休み）13:00

14 現場TBM（ツールボックスミーティング）の定着と習慣化

日本製鉄㈱
安全推進部 上席主幹
田中 将樹

当社では作業前の手順確認、リスク抽出、安全行動確保のための対策としてTBM（ツールボックスミーティング）を義務付けている。その定着と習慣化を促進させるため、独自の評価方法を確立し、約130職場における現地調査と指導を行ったのでその取組みを紹介する。

13:20

15 社内におけるTBM（ツールボックスミーティング）教育

日本製鉄㈱
瀬戸内製鉄所 安全環境防災部 部長
萩原 眞治

当社では手順書のない作業などを実施する際には、作業メンバーでTBMを実施してから作業を行うことを義務付けているが、その実施内容には職場間に差が見られた。そこで、社内TBMレベルの向上を図るための教育プログラムを作成した。ここではその内容の一部を紹介する。

13:40

特別報告

熱中症対策の強化～気候変動適応法の改正の概要について

環境省
大臣官房環境保健部 環境安全課長
吉川 圭子

熱中症対策を強化するため、気候変動適応法を改正し、政府が定める実行計画や、熱中症の危険が特に高い場合に国民に注意を促す特別警戒情報を法定化するとともに、特別警戒情報の発表期間中におけるクーリングシェルターの開放措置などを規定。その概要について説明する。

（14:10 ～ 14:20 休憩）14:20

16 行動の視点を取り入れた安全活動

日産自動車㈱ 栃木工場
第一製造部　組立課 係長
棚網 健一

多くの軽微災害を発生させてしまった。その振り返りからどんな作業から災害が起こっているかを分析し、状態系のパトロールから行動系のパトロールを重点的に実施し、その場で指摘、指導をすることで安全意識を高めていく。

14:40

17 職長教育トレーナーの資質向上に向けた新たな取り組み

大阪安全衛生トレーナー交流会
副会長
打田 欣也

大阪安全衛生トレーナー交流会は4年前の発表以降、コロナ禍の為、交流会の対面開催が困難となった事から、ハイブリッド方式を構築し継続を図った。更に12章あるセミナーを各回2章の発表とした事により、会員の興味が増し、活発な応募と発表内容の向上に繋がった。

15:00

ゼロ災運動分科会

会 場　ポートメッセなごや　イベント館　２階イベントホール

9月28日（木）　プログラム（9:00開場）

9:30

1 ゼロ災達成に向けた取り組み事例
日本車輌製造㈱
機電本部 製造部 班長
黒木 政裕

「安全は全てに優先する」のスローガンのもと、労災根絶を目指して、安全活動を継続しているところではあるが、労働災害の減少傾向が見られない状況を打破するため、全員参加の「指差喚呼」活動や「ヒヤリハット」分析に基づくリスク低減活動、3S 活動等について報告を行う。

9:50

2 STARS. ゼロ災達成に向けた革新的プロジェクト
シンフォニアテクノロジー㈱ 伊勢製作所
総務部 総務グループ 一般従業員
池山 佑斗

現在の組織体制や仕組みを革新するため全員参加型の安全衛生プロジェクト「STARS.（スターズ）」を企画。従業員による自主的な活動を促進し、毎年労災が５、６件発生していたものの、本活動により今年度は危険源を約 90 件解消し、労働災害を１件のみに抑えることに成功した。

10:10

3 ラーニングシートをKYT研修に実践導入した際の試行錯誤の報告
（一社）富山県労働基準協会
北星ゴム工業㈱ 安全衛生管理部 顧問
辻 利彦

危険予知訓練における諸技法の基本とされる KYT 基礎４ラウンド法は、特に「第１ラウンド」の理解と習熟が重要と云われている。中災防本部が推進する「ラーニングシート方式」を取入れた研修会を実践する中で試行錯誤を繰り返し、辿り着いた一つの形（成果）について報告する。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

4 研究所におけるゼロ災への取り組み
㈱日本触媒 吹田地区研究所
レスポンシブル・ケア本部 研究RC部 主任
藤野 寿夫

日本触媒の研究所でのゼロ災活動は研究所全体の方針を示し、それに基づいて各研究室内で考え出した自主的な活動である。この活動でゼロ災をめざし、さらに研究所全体の方針を３年毎に変更することもマンネリ化防止に寄与した。この活動により研究所の安全水準が向上した。

11:00

5 危険感受性向上による災害リスク低減活動
日産自動車九州㈱
製造部 第二組立課
中野 洋祐

日産自動車九州第二組立課で 22 年度の災害傾向を調査すると短期要員に集中している事が解った。短期要員に集中している要因が危険感受性との関連があり、更なる調査を行い、危険感受性を定量的に出す方法が無いかを研究し、手法を編み出し、活用した活動事例を紹介するものである。

11:20

6 エネルギー部　直協ゼロ災達成に向けた取り組み事例
JFE スチール㈱ 西日本製鉄所（倉敷地区）
エネルギー部 部安全専任
松尾 宣臣

自職場と協力会社に共通する安全弱点を分析した結果、非定常作業での KY 精度（危険抽出力）が低いこと等が判明。中災防トレ研修了者主導で KYT 基礎４R 法を導入する等、各対策を講じ、協力会社は 17 年ぶりの年間無災害を達成。直協では直近 10 年で最も良い安全成績を達成。

（11:40 ～ 12:40 昼休み）12:40

運動展望　ゼロ災運動50周年を迎えて、これからのゼロ災運動を展望する
中央労働災害防止協会
教育ゼロ災推進部 次長
武井 勝一

ゼロ災運動は、1973 年に中災防の提唱によりスタートし、2023 年に 50 周年を迎え、この間ゼロ災運動は、労働災害の減少に貢献してきた。チームワークを高める短時間ミーティングやいきいきした職場づくりを進める KY 活動等について、これからのゼロ災運動の展望を紹介する。

13:10

ゼロ災運動分科会

13:10

7 危険感受性向上への挑戦　～見える化マップ導入と自問自答1人KYT
㈱レールソリューションズ
ゼロ災推進リーダー
吉原 恵一

わが社では安全 PDCA サイクルを体系化し、社員の安全教育に尽力している。現場力をより高めるために個人の危険感受性向上を次の課題としている。今回は見える化マップ導入と自問自答 1 人 KYT を導入したことでわかってきた現在の課題とそれに対しての取り組みを中心に発表を行う。

（13:30 ～ 13:40 休憩）13:40

8 夜間でもゼロ災！KY ミーティングの実施による労働災害防止術
東急プロパティマネジメント㈱
ビルマネジメント事業本部 BM 事業部 施設サービス部
アメニティ課 ナイト班 副班長
藤林 悟

当課が担う駅清掃業務では、夜間作業が 365 日どこかの駅で実施されている。夜間ならではの環境的・身体的負担がある中で、夜間作業チーム「ナイト班」は無事故を約 9 年間継続している。その要因は作業前の KY 活動にある。今回は、実施例を交え当課の取り組みを紹介する。

14:00

9 本音で取り組む現場のゼロ災運動
㈱東研サーモテック 名張工場
工場長
安田 久雄

金属熱処理工場のゼロ災運動を報告する。①コロナ禍での KYT 継続（A1 判用紙で 10 分 5 人以下実施）、②管理者コメント、外国人チーム結成で KYT 活性化、③若手安全対策チームのナゼナゼ分析で過去労災再検証、④安全日誌で本音のキガカリを情報共有、⑤ HHK 活動活性化、⑥ KYT 実技を予定。

（14:20 ～ 14:30 休憩）14:30

表彰式
ゼロ災運動 表彰式

ゼロ災運動の普及、推進に積極的に取り組んでいる事業場・個人・団体に対してゼロ災運動推進感謝状を贈呈する。また、全国ゼロ災運動推進協議会が募集した、ゼロ災運動の標語と危険予知訓練イラストシートの優秀作品への表彰を行う。

（14:50 ～ 15:00 休憩）15:00

講演
湿った薪に火をつけろ　～ローカル線を活用した地方創生と会社再生の物語～
えちごトキめき鉄道㈱
代表取締役社長
鳥塚 亮

公募社長として単身乗り込み、いすみ鉄道を再生させるため、また地域を活性化させるために社員をはじめ地域の人々をいかに巻き込み、その心に火をつけていったか、常識を打ち破るアイデアとリーダーシップについて紹介する。

16:00

労働衛生管理活動分科会

会 場　ポートメッセなごや　第３展示館

9 月 28 日（木）　プログラム（9:00 開場）

9:30

1 すべての事業所に義務化（安衛則第 48 条）された歯科健診結果報告について
岡崎労働衛生コンサルタント事務所
所長
金山 敏治

令和 2 年 12 月 25 日に厚労省より「有害な業務における歯科医師による健康診断の実施の徹底」について通知が出され、令和 4 年 10 月 1 日にはすべての事業所に歯科健診結果の監督署への報告が義務化された。歯科健診による職場の安全衛向上の取り組みとその成果の発表である。

9:50

労働衛生管理活動分科会

9:50

講演

合理的配慮　～誰もが働きやすい環境を実現するために～

南森町CH労働衛生コンサルタント事務所
代表・産業医
辻 洋志

法改正により2016年から事業主は幅広い「障害」を持つ従業員へ、「合理的配慮」の提供が義務付けられた。近年のダイバーシティ推進の流れも背景に、病気や障害を持つ従業員にとって働きやすい環境実現への期待が増している。現場での配慮の実践につながるポイントを紹介する。

10:50

2 低騒音高圧エアノズルの発明による作業環境改善　～近畿日本鉄道㈱における取り組み

近畿日本鉄道㈱ 名古屋統括部
運輸部車両課 塩浜検修職場 助役
村田 博之

近鉄では、鉄道車両の定期検査時に床下機器や配管に堆積した塵埃を清掃するためのエアノズルを発明した。この低騒音高圧エアノズルを使用することで作業場の騒音レベル低下による環境改善が図れたので、開発のポイントならびに活用について報告する。

（11:10 ～ 11:20 休憩）11:20

3 鹿処理対応に伴う安全衛生リスクの軽減に向けた取り組み

東海旅客鉄道㈱ 静岡支社
身延保線区 施設係
上田 悟

列車が鹿等と衝撃した際、衝撃した鹿等の処理は保線区が行っている。一連の処理の流れには様々な安全衛生リスクが潜んでおり、近年衝撃件数も増加し対応頻度は高くなっている。そこで、山梨県を巻き込んだ鹿処理の仕組みを構築、死骸保管方法改善、処理時の墜落防止を検討した。

11:40

4 社内における作業環境改善活動の推進

プライムアースEVエナジー㈱
安全健康推進室
小田 泰成

社内では特化物（金属粉じん）を使用しており、作業環境管理のレベルUPが課題である。課題解決のため各部署の専門家を集めた作業環境改善チーム立ち上げ改善活動を行った。成果としてスピード感を持った作業場の改善、環境悪化の未然防止が可能となった。

（12:00 ～ 13:00 昼休み）13:00

特別報告

最近の労働衛生に関する動きについて

厚生労働省
労働衛生課長
松岡 輝昌

労働者の高年齢化やテレワークの普及など働き方の多様化に伴い、職場における労働衛生対策の対象や範囲は拡大している。このような社会情勢の中、令和５年度より14次労働災害防止計画がスタートした。14次労働災害防止計画における重点事項を中心に、メンタルヘルス対策や治療と仕事の両立支援等の職場で求められる取組に関する最近の労働衛生行政に係る動きについて紹介する。

13:30

5 熱中症Literacyの向上にむけて（導入編）～新しい視点からの意識改革～

(一社)日本自動車工業会
安全衛生分科会Ｂグループ研究会委員(三菱ふそうトラック・バス㈱ 人事本部 人事企画部 安全衛生)
別役 重久

本研究会は関東圏自動車完成車メーカー７社で構成され、本年は「熱中症」をテーマにして各社のデータを分析し議論を重ねた。分析から読み取った傾向を基に、熱中症予防の観点から特に「暑熱順化」に着目し、「導入編」として各社が実施した活動を紹介する。

13:50

6 さらなる熱中症災害対策を目的とした追跡調査

㈱ユアテック
技術開発センター 副長
佐藤 寿実

熱中症災害対策として導入した「ファン付き作業服」を着用しても、熱中症を発症する事例が近年散見される。潜在的な原因の調査および、更なる熱中症対策技術の検討を目的に、技術的な視点で追跡調査を行ったので、その結果について紹介する。

（14:10 ～ 14:20 休憩）14:20

7 女性社員の継続的就業と、いきいきと輝き続けるための「フェアミーティング」の取り組み

西日本旅客鉄道㈱ 金沢支社
金沢新幹線電気区 電気管理係
山崎 紀子

JR西日本の工務系女性社員は、極めて少数のため女性特有の悩みに対する支援が乏しい現状を感じ、継続的かつ、いきいきと就業可能な環境作りを目指した会を起ち上げた。当初はコロナ禍もあり、試行錯誤しながらも参加者の拡大、ソフト・ハード面の成果と、その過程を紹介する。

14:40

労働衛生管理活動分科会

14:40

8 WBGT監視システムを用いた熱中症発生防止への取り組み
AGC㈱
環境安全品質本部 環境安全部 安全衛生チーム（AGC横浜テクニカルセンター駐在）一般社員
金 愛未

WBGT監視システムを導入し、各部署にて予め取り決めたWBGT値に応じた労働負荷低減策を行っていく中で、現場作業員のみならず安全担当者も一緒となり状況確認しながら対策を進めることで熱中症発生ゼロを達成した。今回は、その取り組みについて報告する。

15:00

9 列車運転士の労災予防の取り組み
九州旅客鉄道㈱ 博多運転区
主任運転士
觀音寺 翼

労働災害は発生してから、周知や対策をする対応が慣例になっている。そこで発生前に注意を促すことで予防する取り組みを行った。近年、温暖化により増加傾向にある熱中症を防止するために、運転士が自分事として捉え、行動することができるようになるための取り組みを行った。

（15:20 ～ 15:30 休憩）15:30

特別報告

不規則勤務における安全健康管理の要点～トラックドライバーの観察調査結果より～
(独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
産業保健研究グループ 研究員
松元 俊

脳・心臓疾患による労災認定や健康起因事故が多いことで知られるトラックドライバーの働き方と休み方の問題点を探るためにアンケート調査や観察調査を行ってきた。それらの結果をもとに、出退勤時刻や労働時間が一定しない不規則勤務者における安全健康管理の要点を述べる。

16:00

化学物質管理活動分科会

会 場　ポートメッセなごや　第３展示館

9月29日（金）　プログラム（9:00開場）

9:30

1 法改正に伴う化学物質管理活動について
トヨタ自動車九州㈱
安全健康管理部 一般
中島 侑紀

化学物質の法改正へ向けて、事業体内の化学物質管理の強化を行う必要がある。「化学物質のRA」は、使用する作業者誰もが、有害性への知識を持ち、有害性を踏まえたリスク評価が必要不可欠である。そのため事業体でのリスクアセスメントの方法を確立する取り組み等を紹介する。

9:50

2 化学物質の自律的管理に向けた取り組み
日本製鉄㈱
安全推進部 主幹
髙川 勇貴

2023年４月から国内の化学物質管理が大きく変わり、自律的管理への転換が急務となる。当社では、実際の現場管理で使える「化学物質管理におけるミニマムスタンダード」を定め、グループ会社を含めた化学物質管理水準を向上させる取り組みを進めており、その概要を紹介する。

（10:10 ～ 10:20 休憩）10:20

3 化学物質管理デジタル化の取り組み
トヨタ自動車㈱
安全健康推進部 安全衛生支援室 技術Ｇ 主任
古川 詩織

化学物質による疾病未然防止のため、複雑な法令管理、リスク管理を現場は実施している。管理を行う上で、必要な情報の収集並びに専門的知識をデジタル化でサポートすることで法令遵守、適切なリスク管理を担保した上で、現場の工数低減を目指す。

10:40

化学物質管理活動分科会

10:40

④ **プラズマ切断作業の安全化**
JFEスチール㈱ スチール研究所（倉敷地区）
構造材料研究部 技術員
山口 豪介

高マンガン鋼をプラズマ切断した際に発生するヒュームには特定化学物質であるマンガンを多量に含む。これまではヒュームを回収しきれないリスクがあり、安全に切断するための専用の切断架台を作製した。これにより発生する粉塵とマンガンの発生量を抑制し、リスクを解消できた。

（11:00 ～ 11:10 休憩）11:10

特別報告

新たな化学物質規制の円滑な実施に向けて
厚生労働省
化学物質対策課長
安井 省侍郎

労働安全衛生法に基づく新たな化学物質規制について、告示等で定めた詳細事項を説明するとともに、その円滑な実施のための課題を踏まえた各種施策について報告する。

（11:40 ～ 12:40 昼休み）12:40

パネルディスカッション

化学物質の自律的な管理における保護具使用

パネリスト	（公社）日本保安用品協会 JSAA保護具インストラクター	篠宮 真樹
	産業医科大学 医学部衛生学講座 教授	辻 真弓
	防衛医科大学校 医学教育部 医学科 衛生学公衆衛生学講座 講師	岩澤 聡子
	厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課 環境改善・ばく露対策室長	平川 秀樹
モデレーター	中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター 所長	川本 俊弘

（14:10 ～ 14:20 休憩）14:20

講演

化学物質の自律的な管理、何から始める？
（独）労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
化学物質情報管理研究センター
城内 博

化学物質管理が「法令順守型」から「自律的な管理」へ大きく転換した。これは危険害性の情報共有及び事業者の選択によるリスクアセスメントを柱としており、大幅な政省令の改正が行われた。「自律的な管理」にむけ何から始めるかを皆さんと一緒に考えたいと思う。

15:50

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

会場　ポートメッセなごや　第１展示館Ｃ

9月28日（木）　プログラム（9:00開場）

9:30

① **食育活動推進によるヘルスリテラシーの向上**
トヨタ自動車㈱
安全健康推進部 第１健康支援室 元町健康支援グループ
一般
石川 理良

食事指導対象者の多くが、長年の食習慣の積み重ねに起因しているが、工場での食育活動は、後発的かつ単発的な関わりが主軸であった。今回、食堂・売店業者様と連携を図り、ポピュレーションアプローチを強化し、ヘルスリテラシー向上に取り組んだ歩みを報告する。

9:50

② **未来の自分へ健康な体を届ける ITベンチャーの食への取り組み**
㈱エボルブ
Operation Design部 主任
阿世知 みさき

平均年齢28歳、平成生まれ８割、生活が不規則になりがちな社員多数のIT系企業。ぽっちゃりもちらほら!? メンタルヘルス不調ゼロを目指す一次・ゼロ次予防と並行して「1年後、30年後の自分へ健康な体を届ける食生活！」を掲げた、当社ならではの食生活改善の取り組みを紹介する。

10:10

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

10:10

特別報告

労働者の健康確保と健康保持増進のために

愛知労働局
労働基準部 健康課 課長
山本 祥喜

労働者の生涯において、職業生活は非常に高い割合を占めることから、事業場においては必要な健康確保を図るとともに、継続的かつ計画的な健康保持増進に努めることが重要である。第 14 次防を踏まえた愛知労働局での健康確保対策の取り組みを紹介する。

（10:40 ～ 10:50 休憩）10:50

3

ダイセル播磨工場における食行動変容の取り組みについて

㈱ダイセル
事業支援本部 Gr 健康サポートセンター（兼）
播磨工場総務部 保健師
桐田 真由

当工場における肥満・生活習慣病予防対策の取組として、これまでの保健指導に加え、ベジチェックの測定を取り入れた。1 日どのくらい野菜を摂取しているかミエル化を図ることで、野菜不足を理解し、意識して野菜を摂取する方が増えた。この生活習慣病予防対策の取組を発表する。

11:10

4

健康 KPI の設定と、健康行動の実践 / 定着のための取り組み

豊田合成㈱ 健康管理センター
安全健康推進部 健康推進室 グループリーダー
井上 和美

これまでの有所見者に対する健康施策ではなく、従業員全員の健康意識 / 行動変容を促進するために、新たに 8 つの健康指標を採用した。現状調査から重点取り組み項目を選定し、社内外の連携取り組みにより、各指標のポイントアップを図った。

11:30

特別報告

コロナ禍がもたらした生活習慣等の変化～愛知県三河地区各労働基準協会の調査～

岡崎労働基準協会 元専務理事（藤田医科大学公衆衛生学教室 研究員）／もろかみ労働安全衛生コンサルタント事務所長（中災防安全衛生エキスパート）
加藤 善士

愛知県三河地区の各労働基準協会は協力し、2020 年に事業場のコロナ禍の影響（2 協会）、2021 年は講習受講者に（コロナ禍前後での）生活習慣の変化（3 協会）、2022 年には講習受講者に健康状況等（5 協会）のアンケート調査を行った。その結果概要を報告する。

（12:00 ～ 12:50 昼休み）12:50

講演

労働者における勤務状況・生活習慣とストレス及び生活習慣病の関係（＋情報提供）

早稲田大学 スポーツ科学学術院
スポーツ疫学研究室 教授
澤田 亨

早稲田大学 スポーツ科学研究科
スポーツ疫学研究室 博士課程
郡山 さくら

中央労働災害防止協会
健康快適推進部 上席専門役
浜谷 啓三

早稲田大学スポーツ科学学術院スポーツ疫学研究室と中災防が共同で、中災防のストレスチェックサービス総合版のデータを用いて、「勤務状況や生活習慣とストレスおよび生活習慣病の関係」に関する解析を行ったので報告する。また、厚労省から新たに公表される予定の身体活動・座位行動ガイドラインの概要を紹介する。

（13:50 ～ 14:00 休憩）14:00

5

全豊田安全衛生研究会健康部会における「健康チャレンジ 8」の取り組みについて

豊田通商㈱
人事部 健康管理室 保健師
西山 晴香

全豊田 17 社で構成されている全豊田安全衛生研究会健康部会では 8 つの健康習慣の改善に取り組む活動「健康チャレンジ 8」を推進している。豊田通商㈱では 2021 年度に導入し、取り組みに対するデータ分析、効果検証をおこない PDCA を回し社員のヘルスリテラシーの向上に努めている。

14:20

6

鉄道会社の乗務員職場における健康経営の実施について

東日本旅客鉄道㈱ 盛岡支社
盛岡運輸区 主任
寺田 翼

日々の列車運行を担う乗務員の勤務は、列車ダイヤに依存しているため不規則である。生産性の向上や従業員の活力向上を実現するためには、乗務員一人ひとりの健康意識の醸成が不可欠である。JR 東日本盛岡運輸区では、「食と運動」という 2 つの観点から健康経営の推進に挑戦した。

14:40

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

14:40

7 高齢化対策「いきいき健康プログラム」の取り組み
トヨタ自動車㈱
安全健康推進部 第１健康支援室 健康企画Ｇ 主任
井上 章平

60 歳以降も業務や私生活においていきいきと活躍し続けることができるように運動機能維持向上を目的とした「いきいき健康プログラム」をスタート。また製造現場で起こる職業性疾病予防にも取り組み、現在は２本柱の筋骨格系疾病予防活動と運動機能改善活動で活動を継続中。

（15:00 ～ 15:10 休憩）15:10

8 高年齢社員への健康支援と職域拡充 ～転倒等リスク評価セルフチェックを通じて～
ヤマト・スタッフ・サプライ㈱
CSR 戦略部 アシスタントマネージャー
日野 貴久

当社は全国１万名の高年齢社員を雇用しているが、適切な職種職域の提供、労災発生率低減を課題としている。施策として転倒等リスク評価セルフチェックを全国実施するため、基準作りに試行錯誤を重ね全国研修に至った。現在約 5000 名実施、今後も安心安全に取組む会社を目指す。

15:30

9 当院での職業性腰痛予防対策の実践活動報告　～医療安全委員会を通じて～
(医)三省会 堀江病院
リハビリテーション科 理学療法部門リーダー
渡 良太

院内医療安全委員に講師として参画。職業性腰痛のリスクマネジメントを目的にした活動報告。工夫点は動画配信拡張、苦労した点は継続性。振り返りは教育体制の構築ができた。今後の展望は人間ドックの運動器健診参入で安全で働きやすい職場環境の形成、健康経営推進の活動継続。

15:50

10 2018 年～ 2020 年における SAS スクリーニング検査の集計と取り組みの報告
名古屋鉄道㈱
人事部 サブリーダー保健師
熊田 真由美

2003 年より鉄道の安全運行のため運転士の健康管理の一環として睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング検査を実施している。2018 年からの３年間の結果と過去の結果や健康診断結果・問診内容等で集計・分析結果と取り組みについて報告する。

16:10

9 月 29 日（金）　プログラム（9:00 開場）

9:30

11 所内で働く全ての人をタバコの害から守る！ JFE スチール㈱知多禁煙推進活動！
JFE スチール㈱ 知多製造所
総務部 安全健康室 保健師
榎本 奈緒美

従業員の健康管理業務の中でも禁煙対策は優先順位の高い課題である。卒煙を達成するためには、喫煙者支援と共に生活の大半を過ごす職場での喫煙対策を徹底することが必要である。喫煙者支援と喫煙環境の整備を全員参加で行い、JFE スチール初の敷地内禁煙開始となった。

9:50

12 健康経営施策としての喫煙対策 ～グループ全体施策の活動報告と考察～
㈱東芝
人事・総務部 総務企画室 安全保健グループ 保健師
大島 晴輝

安全健康経営の取り組みとして、2020 年１月より国内グループ全体で就業時間内禁煙と屋内喫煙所の廃止、2022 年３月末までに敷地内（屋外含む）喫煙所の全廃を実施し、取組みの期間で喫煙率を 3.8% 低減できた。実施準備から現在に至るまでの調整や取り組み内容を報告する。

10:10

特別報告

職場におけるハラスメントをなくすために
テレビ朝日映像㈱
経営管理局 コンプライアンス部
主任ハラスメント相談員 心理相談員
惣部 潔

職場のハラスメントをなくそうとした時、メンタルヘルスと表裏一体と考えた対策を施す必要がある。そして、この２つは、新人教育や高年齢労働者の活性化ともつながっていた。具体的事例も盛り込んだ、分かりやすい啓発活動の実績と、そこで直面した新たな問題点も合わせて報告する。

10:40

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

（10:40 ～ 10:50 休憩）10:50

シンポジウム

ポジティブ・メンタルヘルスで元気に働く～「職場の強み」に注目した事業場での取り組み～

第１部：基調講演「ポジティブ・メンタルヘルスとは」

慶應義塾大学 総合政策学部 教授　島津 明人

第２部：パネルディスカッション

パネリスト　慶應義塾大学 総合政策学部 教授　島津 明人
東海旅客鉄道㈱ 健康管理センター 主任臨床心理士　森脇 正弘
㈱友伸エンジニアリング 総務部 総務課長　塩谷 朋之
モデレーター　中央労働災害防止協会 健康快適推進部長　林 かおり

「ポジティブメンタルヘルス」とは、働く人が心もからだも健康な状態で元気に働いて、生産性の向上や組織の活性化を目指す取り組みである。メンタルヘルス不調者への対応や高まったストレスを軽減化する対策は大切である。しかし、良好な状態で前向きな心の健康を意識した「ポジティブ・メンタルヘルス」の取り組みも大事である。そのためには「個人」と「仕事」のいずれの資源も充実させることにある。本パネルディスカッションでは、「ポジティブ・メンタルヘルス」について解説するとともに、事業場での取り組みを紹介する。

（12:20 ～ 13:20 昼休み）13:20

13 Office365を活用した新たな職場支援の検討

東日本旅客鉄道㈱ JR東日本健康推進センター
保健看護室 主任看護師
小田原 佳子

健康経営数値目標の理解度向上・目標達成に向けヘルスリテラシー向上につながる支援を検討した。健康職場づくりを目的にオンラインコミュニティを作成し、健康イベントを実施。Office365 習得度やヘルスリテラシーに関わらず、あらゆる社員が参加できたと評価を得た。

13:40

14 ウェアラブルデバイスを活用した新たな健康づくり施策

中部電力㈱
本店 安全健康推進室 健康増進グループ 保健師
牧野 瀬理

当社は全従業員への個別保健指導やメンタルヘルス対策などの健康施策を推進している。 2022 年２月には、従業員の健康づくりをさらにサポートするため、希望者全員にウェアラブルデバイスを配付した。デバイス使用者の行動変容の概要等について報告する。

（14:00 ～ 14:10 休憩）14:10

講演

コロナ禍、DXがもたらす職場の変化と働く人のメンタルヘルス

東京大学大学院医学系研究科デジタルメンタルヘルス講座
特任教授 東京大学・名誉教授
(一財)淳風会 理事
川上 憲人

コロナ禍による感染防止対策・社会的距離の拡大、およびコロナ禍が加速したテレワークなどの自律・分散型の働き方や企業のデジタル・トランスフォーメーション（DX) により、働き方は大きく変化した。これを踏まえた、ポストコロナ時代におけるメンタルヘルス対策のあり方について述べる。

15:10

第１展示館Ｃに
「事業場におけるメンタルヘルス・健康づくりの無料相談コーナー」開設！